

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106688		
法人名	社会福祉法人旭川荘		
事業所名	グループホーム よしい川		
所在地	岡山市東区西大寺浜608		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の“自立”と“尊厳”、サービスの3原則の“もてなし”“こちよさ”“きぼう”を共有し、お一人おひとりの「出来ること」「したいこと」や思いを汲み取り、穏やかに笑顔で過ごしていただけるようにケアしている。また、週に1回の訪問看護師による観察も含め、健康面への配慮やきめ細かいケアを行い、心地よく安心して過ごして頂くことが出来るように努めている。

また、敷地内の散歩や、季節にあった野菜や花などを栽培、収穫し、目で楽しんだりもしている。以前は、同じ建物内の子育てひろばに遊びに来ている地域の親子連れや、敷地内の有料老人ホームの利用者、専門学校の子生、ボランティアの方との交流、オレンジカフェの開催もあったが、現在は新型コロナウイルスの影響で交流も自粛しているが、感染対策をしたうえで、徐々に交流できつつある。地域との交流の場としてもサロンを年3回開催し、地域への認知度も広がりがつつある。日々関わる職員が意識を高くもち、利用者の暮らしに潤いをもたらすようなケアを行うことで、居心地よく、幸せだと感じる住まいとなるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106688-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の入れ替わりが多く、ここ最近、やっと満床になった。そのときのピンチをチャンスにと、新しい雰囲気、活動的な施設に少しずつ模様替えしてきた。入居者も身体が元気で活動しやすくなったのも、より職員の見守りや寄り添いがきめ細かく、充実した見守りに徹することができた結果であろう。広い敷地は、環境的にも優れているので、日々施設をせず、「どうぞ、行ってくださいよ」と安心して言葉をかけ、自由に外の空気に触れられる配慮も当たり前となってきた。それが、家庭にいる時と同じ雰囲気となり、利用者が納得し、家族として付き合える関係に結ばれている。地域の方も参加できる新たなサロンをホールにて年3回催したら、「母体の施設の敷居がぐっと低くなった」と地域の方の印象が変化した。サロンの内容も、認知のセミナーからカレッジの生徒の出し物、アロマ感覚のハンドマッサージなどが地域還元への工夫となっている。また、管理者は、ハートtoハートのこだわりをもって、気分転換できる少しの距離を置いたボールや縫いぐるみのキャッチボールで、足や身体を動かすボディランゲージ(体をさすることも含め)で緩和させ癒しを求め、やすらぎを追求している。利用者だけでなく職員に対しても管理者は、自分の思いと違っても良く聞き、ゆっくりと待つことに徹して居心地を引き出すことも今後活かせるゆとりの表れだと感じている。管理者の思いが、昔の良かったことを思い出し「楽しい」という新たな言葉となり、響きがこだましていた。関わっていることは違っても、常に環境に合わせてどんな時にも活かしている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「自立」と「尊敬」を軸に“もてなし”“こちよさ”“きぼう”を三原則とし、玄関、施設内に掲げている。また、それを職員がしっかりと把握し、それに沿ったサービスを提供できるよう確認し合える場を設けている。	玄関と事務所の前に施設理念と働くときに大切にしたいことを掲示している。業務に入る前には、理念を見るように心掛けている。月1回のミーティング時には、理念に触れることで、振り返りの場を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり以前のような交流は難しいが、サロンを開催し、敷地内の説明会などを行っている。近くでの交流は難しくても、利用者の存在を感じていただくことができるように努めている。	昨年度からサロンを開催した。保育園や公民館、近隣住民に案内を出したら、徐々に認知度が増していき、多くの方に参加者して頂くことで地域コミュニティが形成された。アロマやコーヒー、学生の出し物やニコの楽器演奏が好評だった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で家族を含めた地域の方に現状や関わり方など伝えている。また、管理者及びケアマネは地域の高校にも出前講座に出向き、認知症についての理解を深めるとともに介護の面白さも伝え、関係づくりも行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の終りに開催しており、事業所の現状やヒヤリハットなどの報告を行い、意見交換をしている。町内会長や民生委員にも情報提供し、地域の情報も共有している。現在、ご家族の参加はないが、都度、会議録を送付し確認してもらっている。意見があれば組み込み、職員間で共有し、サービスの個別化につなげている。	コロナの状況を鑑みて、リアル開催をしている。地域包括、事業者指導課、町内会長、民生委員、家族代表が参加している。感染対策、行事報告や案内、入居者状況、ヒヤリハットの報告をしている。身体拘束、虐待、人権擁護についての現状報告もしていて、貴重な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、市の事業者指導課に運営推進会議の案内をし、毎回出席がある。また、市の担当者にも質問や相談などあれば連絡し、協力関係を深めるよう努めている。	管理者や計画作成担当者が窓口の中心となり、親切・丁寧で何でも言える関係ができています。地域包括支援便りでは、研修案内や警察からの有益な情報が頂けている。カレッジ学生が町内のゴミ拾いでいたら、町内会長より「ありがとう」の言葉を頂けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針を定め、職員間で共有している。玄関も夜間以外は基本的には施錠していない。毎月のミーティング時に身体拘束防止委員会を開催し、現状の把握と、身体拘束は原則行わないことを確認しあっている。また、研修も行い、机上で学ぶ機会も設けている。	研修は年2回で、外部講師を招いての研修と施設内で職員が講師を務める研修がある。ヒヤリハットの分析や法人内での事例を取り上げたり、スピーチロックについて話し合ったりしている。敷地が広いので、玄関の施錠は基本していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止・人権擁護委員会をたちあげ、指針も定めている。毎月のミーティング時に開催し、職員間で啓発し合っている。研修も実施し、自分の行動を振り返ることが出来るようにもしている。管理者は、職員が疲れやストレス等たまらないよう配慮、観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて説明や紹介を行うことができるよう、関係機関とも随時連絡や情報交換できるようにしている。職員に対しても、権利擁護について学習の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学していただいたうえで、重要事項説明書なども渡し、説明している。契約時には職員2人対応にて不安や質問などがなく尋ねながら、最終確認とともに、丁寧に説明を行っている。また、法改定等についても、変更前に説明・相談等を行い、随時、補足を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、利用者の日常の状況報告を行い、ご家族との関係性の構築に努めている。要望等があった場合は、管理者に迅速に伝え、必要時には電話などで意向の確認を行ったうえでミーティング・申し送りノートで共有し、早急に対応している。	面会はコロナ対策をした上で、玄関先で短時間少人数で実施していて、敷地内の散歩は出来るようにしている。利用者の意見にすぐ答えるのではなく、傾聴の姿勢を大切にしている。2ヶ月に1回、GHよしい川通信を家族に渡していて、利用者の様子がわかると好評の声を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りでの情報・意見交換の他に、月1回の会議で、意見や提案等を聞く機会を設けている。申し送りノートには、決定事項や報告だけでなく、職員の提案や思いなども気兼ねなく活発に記入されており、お互いの思いの確認や、ケアのヒントを得ることも多く、ケア向上へと繋がっている。	年1回面談があり、管理者と計画作成担当者で実施している。何かあればその都度、話を聞く場を設けている。申し送りノートや法人内のSNSでもやり取りが可能で、情報共有がしやすくなっている。勤続年数が長い職員が多く、風通しが良い環境となっている。カレッジ学生のアルバイトの意見も参考にできるので、職員の目線が広がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の特性を把握した上での役割分担を行い、研修参加や過労防止に配慮した勤務体制とし、健康で、やりがいを持って働けるようにしている。評価すべきところや外部からの嬉しい意見は、本人や職員一同に伝え、モチベーションを上げることに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部の研修には、オンラインも含め、出来るだけ多くの職員が受講参加できるように配慮している。また、研修報告については、ミーティングで発表したり、報告書も自由に閲覧できるようにし、知識の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会へ入会し、情報収集や研修へも積極的に参加するようにしている。また他の事業所との情報交換も随時行うようにし、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人よりしっかりとアセスメントを行い、現時点での困っている事等の不安要素を普段の関わりから情報収集する。コロナ禍であり病院や施設に入居中の方とはリモートでの面接が多かったが、出来る限り本人の言葉をお聞きしたうえで、ミーティング等で職員間で共有し、新しい暮らしに早く慣れ、楽しめるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、ご家族からも困っていること、不安に思っていることについて情報収集し、職員間で共有するよう努めている。また、面会時や定期の状況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接で得た情報はスタッフ間で共有し、プラン作成に活かしている。また、プランについても実際にサービス開始となった後もミーティングで再度検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの「出来ること」「やりたいこと」を把握し、可能な限り食事作り・洗い物・洗濯物干し・片付け等、ご利用者の方とともに行き、「ありがとう」を伝える機会を増やし、安心して寄り添えるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な状況報告で、ご利用者の日々の様子について報告するとともに、受診、買い物、外出、電話での対応等、協力してもらえることは可能な限り協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅の様子を観に行ったり、知人の方が面会に来られたり等、これまでの関係性が維持できるよう努めている。	生活歴を確認した上で、馴染みの関係継続に努めている。昔の友人からの電話があったり、行きつけの散髪屋さんやお墓参りにも行ったりした。師弟関係にあった方から、顔見がてらの差し入れもあった。施設内では、利用者同士が落ち着けるように、リビングの席の配置も工夫を凝らしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係、相性を把握した上で、食事の席なども柔軟な対応をしている。また、ご利用者同士が関わる時間を持てるよう共通の話題を提供したり、利用者間に介入し、コミュニケーションが円滑にすすむようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、様子を伺いに訪問した。コロナの影響もあり面会が難しくはなっているが、感染対策をして今後も訪問したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、表情や発言から一人ひとりの思いを汲み取り、意向の把握に努めている。自宅が気になる方には、一緒に自宅まで出掛けた。また、自身でうまく伝えることの難しい方についても、これまでの生活歴やご家族からの情報提供や協力もあわせ、ご本人の意向に近くなるように努めている。	ボディランゲージを使う事で、利用者の気持ちに寄り添うように工夫している。職員は、Heart to Heart の精神で接することで利用者との心を通わしている。言葉をあまり発しない方へは、表情や仕草から読み取り、申し送り時には、ノートに記録することで情報共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントと共に、日々の関わりの中でご本人の体験談や思い出話を聞き取り、共有している。本人からの情報以外に、ご家族や前施設からも情報収集を行い、性格やライフスタイル、好み等を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録にて1日の様子を記録し、職員間で情報共有できるよう努めている。また、新入居時や薬変更時、体調悪化時、退院時など迅速に把握が必要な方については、グループラインも活用し、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から情報提供・要望等を伺い、それに沿ったものを作成している。職員からの意見も担当を中心に勘案し、全体でのミーティング等でプラン立案やモニタリングを行っている。	入居時に暫定プランを立てて、その後は1ヶ月、何月なければ6ヶ月毎に見直しをしている。日々の介護がモニタリングとなり、担当制を敷いているので情報共有がしやすく、計画作成担当者がプランに反映させている。ICTを活用しているので、電子機器でも見ることができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録や申し送りノート、気づきノート、ミーティング等を活用し、職員間で情報を共有し、日々の介護に反映させている。早急に対応が必要なものについてはグループラインでその都度対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況、要望に応じて、ドライブや受診付き添い、買い物代行やグループ外出など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春と秋のさつまい芋の苗植え、芋ほりには、見学のみであるが参加し、学生や子育てひろば利用の親子さんとの交流を実施した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が協力医院の医師がかかりつけ医であり、月1回の往診を受けている。専門受診が必要な場合はご家族に説明を行い、対応している。急な体調不良の場合も、医師との連絡連携体制をとり、早急に対応できるようにしている。	かかりつけ医は選べるが、協力医に全員が転医している。往診が月に1回あり、協力医との関係は良好で、会えるのを心待ちにしている利用者もいる。24時間対応なので安心できる。他科へは、基本家族が連れて行くが、緊急時には職員が連れて行く。訪問歯科は、何かあれば来て頂ける。週に1度、看護師の出勤もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェック・排せつなど確認を行うとともに、体調把握が必要な方はさらに配慮している。週に1回看護師の訪問があり、専門の健康チェックを受け、爪切りや耳掃除などのケアも行っている。何かあれば相談し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、支援方法などに関する情報提供を行うと共に、入院中も状況把握に努めている。家族とも密に連携を行い、安心して治療できるように努めている。退院後も、継続して適切なケアができるよう病院との良好な関係作りに努め、利用者が安心して過ごすことができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明し同意を得ている。体調や状況の変化に応じて、その都度説明し、医師や訪問看護師とも相談をしている。また、日々、少しでも負担のかからないケアの方法などを意見交換し、安楽に過ごすことができるように努めるようにしている。	看取りは実施していて、看取り経験もある。重要事項にて説明し、同意を得ている。看取り期に差し掛かった場合には、ドクターの意見を聞き、家族や本人の要望を受け入れている。トイレで用を足したいと申し出があり、トイレ誘導をして用を足すことができ達成感が生まれ、職員も嬉しい気持ちになった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、急変時、いつでも確認できるようにし、周知徹底図っている。また、救急法やAEDの研修を消防署の協力のもと定期的に行い、適切な対応ができるよう努めている。今年度はサニクリーンの協力のもと、AEDの基礎的研修を実施。また、防犯対策として非常通報装置、防犯カメラも設置し、安心感を持って暮らしを送ることができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画及び避難確保計画、地震・水害BCPを作成し、定期的に併設施設と合同で、防災訓練(地震・津波・水害・火災)を実施している。年に2回は敷地内の専門学校とも合同で行っている。ホーム内でも、訓練を実施し、職員間の連携や、改善点など意見交換し、実行力を身につけている。また、地元町内会とも協働し、防災対策行っている。	施設内では、年2回昼夜想定で火災訓練を実施し、法人全体では、年2回水害(大雨)と地震からの津波想定で実施した。避難場所は併設する学校の2階に避難するようになっている。事務所に連絡網とハザードマップを掲示している。法人内に消防顧問がいるので、アドバイスを頂くことができる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	明るく気持ちの良い声かけで始まり、一人ひとりの人格・プライバシーを尊重して、尊厳を守ることができるように、それぞれに応じた声かけ、非言語コミュニケーション、介護方法、態度について、ミーティング等で職員同士で話し合いながら配慮して対応している。	呼称は基本、苗字に「さん」付けて呼んでいる。本人・家族の希望や反応が良い場合には、親しみを込めて、下の名前に「さん」付けて呼ぶ場合もある。排泄失敗時には、ジェスチャーを使ったり、小さい声で「ゆっくり冷静に」と言葉を掛けたりする工夫が見られた。居室に入る時は、ノックをして「失礼します」と言ってから入るようにしている。	今でも十分できていますが、さらにプライバシーが配慮できる工夫をしてみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの認知症の症状や特性を理解したうえで、一人ひとりの思いを汲み取り、何をしたいのか、何ができるのか考え、その人に合った活動を日々の暮らしの中で見つけ出して提供したり、動きを見守るなどしている。無理強いを決してしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」が実現できる生活となるように、一人ひとりの体調やペースに合わせて、落ち着けたり、楽しめることを見つけている。職員の価値観をおしつけることなく、それぞれが可能な限りご自分で選択し、ご自分のペースで過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いままでの生活の延長線となるように、馴染みのある好みの衣類やお化粧道具を準備し、身だしなみやおしゃれに配慮している。また、おしゃれた姿を意識的に褒めることで、喜び、嬉しさを感じてもらい、前向きで明るい気分になることに繋げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの心身の状態を見極め、食材の調理、配膳、下膳、テーブル拭きなど、出来ることを職員と一緒に、同じテーブルを囲み、安全に楽しく食事をすることができるようになっている。生活リズムに繋がるよう、出来る限り自立を促し、皿やスプーンを工夫している。また、咀嚼、嚥下不良な方には、一口大、刻み、ミキサー食、とろみ剤の使用等、食べやすい形態にすることも対応している。各自の誕生日には、好きな食べ物をお聞きし、手作りで提供しており、ケーキも手作りにしている。	朝は完全オリジナルで、昼夜がケイタリング。ご飯と味噌汁は施設で作っている。食材を切ったり、洗ったり、米を炊いたりする利用者もいる。誕生日には、食べたい物の希望を聞き、お寿司やケーキを提供している。季節に応じた旬の食材や畑で採れたオクラ、ネギ、きゅうり、なす、スイカが食卓に並ぶこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好傾向、健康状態、疾患に応じて食事量等配慮している。旬の野菜を使うなどし、彩りや栄養面にも気を使い、食事、水分量などを把握し、食欲が無い時や好みでない物の時には別のものを提供するなど柔軟な対応を行っている。また、状況に応じて高カロリードリンクを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて声かけ、見守り、あるいは職員による口腔ケアを行っている。日によりケアが困難時もあるが、プライドを損なわないよう心がけている。また、食事前には口腔体操を実施し、咀嚼力アップ、誤嚥性肺炎予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン・排泄サインを把握し、自尊心を傷つけないように声をかけ、定時・随時誘導し、身体機能に応じた介助を行い、自然排泄に努めている。また、利用者の経済面での負担を少しでも減らすように尿量に応じたパットを選択し、状態を観察し随時見直している。	トイレは3ヶ所ある。排泄チェック表を活用して、便通の間隔や薬の調整にも役立てている。トイレ誘導を繰り返すことで、パットが小さくなったり、トイレで排泄できるようになったりした。男性便器もあり、立位で用を足す男性利用者の方もいて、ポータブルトイレの利用者はいない。	トイレやお風呂への誘導の仕方に工夫を凝らしてみたいか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、確認。体操・散歩などで適度に身体を動かしたり、牛乳やきなこ、ヨーグルトなど提供し自然排便を促している。息む力の弱い方には、トイレ時に下腹部をマッサージしたり、加圧することで排便できることもあり、個人に応じて対応している。状況に応じて下剤や坐薬なども活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきに実施。身体状況に応じ、福祉用具なども使用。失便・発汗・生活習慣にあわせ、時間も個別に対応。入り難い人には、声かけも工夫している。好みの石鹸・シャンプーの使用や、好みに出来るだけ応じた湯温に調整し、満足感のある時間となるように心掛けている。また、お化粧品やヘアメイクなども好みに応じてお手伝いしている。	入浴は週3～4回で脱衣所は冷暖房完備となっている。浴槽が桧葉風呂で風情を感じながら入浴することができる。拒否される場合には、「〇〇さんのためにお湯入れたんよ」、祈るように「お願いします」と言葉掛けをしている。夏には露天風呂気分を味わって頂けるように、窓を開けることもある。1対1の場面になるので、意見を聞き取る貴重な場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操や散歩、活動を行い、生活リズムを整えるよう心がけている。体調等に応じてベッド臥床してもらったり、ソファで休んでもらったりと個人の状態に応じて対応している。就寝前には寝間着への更衣を促し、暖かい飲み物を提供し安眠の支援をしている。暑がり、寒がりなどの好みも把握し、室温や寝具も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更、追加された時は、薬の注意事項を個人のケース記録や申し送りノートに記載し、職員間で情報が共有できるように努めている。それぞれが適切に服薬できるように、薬の形状を主治医や薬剤師とも相談し、散剤化やとろみ、一包化、拒否した時には甘い飲み物で服用するなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きなことややりたいことをできるように、ご利用者の思い等を職員間で共有し、家事や活動に活かせるよう努めている。体力のない方には、座ってできる家事手伝いなどもはたらきかけ、満足感や自信に繋げ、感謝や労いの言葉も意識的にかけている。また、外気浴やドライブなどで気分転換も図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調等により長時間の外出が難しい方でも、気候に応じて、敷地内のリハビリガーデンやホームの周辺を散歩した。また、菊花展への外出や、買い物にも付き添ってもらうなどもした。	広大な敷地内での散歩や日向ぼっこ、飼い犬の餌やりにも同行したり、草取りをしたりして過ごしている。秋には、少人数で菊花展に出かけたら喜んで頂けた。食材の買い出しに、近隣のスーパーと一緒にいったこともある。職員に同行することでドライブ気分が四季を感じて頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週の移動パン屋では、希望者には足を運んでもらい、好みのパンを選んでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には直接電話で話をしたり、手紙やはがきの返事を書くなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは、折々の行事や季節感を取り入れた装飾をし、屋内にいても四季や時候を感じてもらおうようにしている。また、生の花や観葉植物なども手入れを行い、そこから会話に繋がるように努め、清潔に居心地よく過ごせるよう工夫している。	開放的で光が差し込む明るいリビングでは、利用者は落ち着いた雰囲気、大好きな歌謡曲を聴いて過ごしていた。食後にはティータイムを楽しんでいる利用者の姿が窺え、ゆっくりと時間が流れていた。元気よく体操やうさぎ投げをして、フラストレーションが溜まらないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で集中して編み物したり、テレビ鑑賞、新聞を読む時間も大切にしている。また、利用者間の人間関係や落ち着く場所を把握し、良好な関係の方が一緒に過ごすことができる食卓やリビングのレイアウトを工夫し、落ちつける居場所となるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談の上、馴染みの家具・思い出の品、必要な物など、持ってきていただき、落ち着いた環境になるようにしている。職員同士でも意見交換しながら、小まめに環境整備も行い、安全に心地よく過ごせるよう努めている。	備え付けは、ベッド、クローゼット、タンス、洗面台、エアコン、脱臭機能付き換気扇。扉には鍵がついていて、プライバシーの確保もしやすい。テレビや読書、編み物やチャイナマーブル(飴)を舐めて自由に過ごして頂いている。家族の写真を飾ることで昔を思い出せる空間となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごすことができるよう、すっきりと片付け、居室入り口やトイレに表札をつけることで、場所を認識できるようにしている。また、手すりや家具などをつかまりながら歩行できるようレイアウトにも配慮し、安全に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				